

# 学校施設再配置検討の 住民説明会

田原本町公式キャラクター  
「タワラモトン」



日時：2021年10月2日・3日

会場：青垣生涯学習センター 2階研修室

# 1. 田原本町におけるこれまでの 取組経緯について

# 2015年に検討委員会を発足し、再配置に係る検討を進めてきました。これまでの取組は田原本町のホームページでも紹介しています。

時期	取組事項
平成27(2015)年度 ～平成28(2016)年度	「田原本町学校・幼稚園の規模及び配置の適正化に関する考え方について」答申
令和2(2020)年度	「小中学校施設再配置基本計画素案」の検討
令和3(2021)年度 (予定)	「小中学校施設再配置基本計画案」の策定

### 学校再配置について

田原本町では、人口減少及び少子高齢化が進行する中、本町の次代を担っていく子どもたちに、より良い教育環境や教育条件を整えるため、田原本町学校・幼稚園規模適正化検討委員会の「田原本町学校・幼稚園の規模及び配置の適正化に関する考え方について（答申）」を踏まえ、より具体的な小・中学校、幼稚園施設の適正配置を考えた学校再配置の取り組みを進めています。

 [「田原本町学校・幼稚園の規模及び配置の適正化に関する考え方について（答申）」](#) (PDFファイル: 1.6MB)

### 令和2年度の取り組み

**田原本町小中学校施設再配置基本計画素案策定に係る庁内検討会議**

庁内検討会議については、学校再配置を推進していくため、庁内部の関係部署との合意形成を図ることを主眼として開催しています。

 [庁内検討会議名簿](#) (PDFファイル: 49.4KB)

 [第1回次第](#) (PDFファイル: 77.7KB)

 [第2回次第](#) (PDFファイル: 66.0KB)

### 学校施設の再配置検討住民ワークショップ

田原本町における学校施設の再配置検討にあたり、ワークショップを通じて、学校再配置について地域や保護者の方々のご意見をお聞かせいただき、今後の検討の材料とさせていただきますことを目的として開催しています。

 [第1回開催結果](#) (PDFファイル: 886.0KB)

 [第2回開催結果](#) (PDFファイル: 817.8KB)

### これからの学校教育のあり方に関するアンケート調査

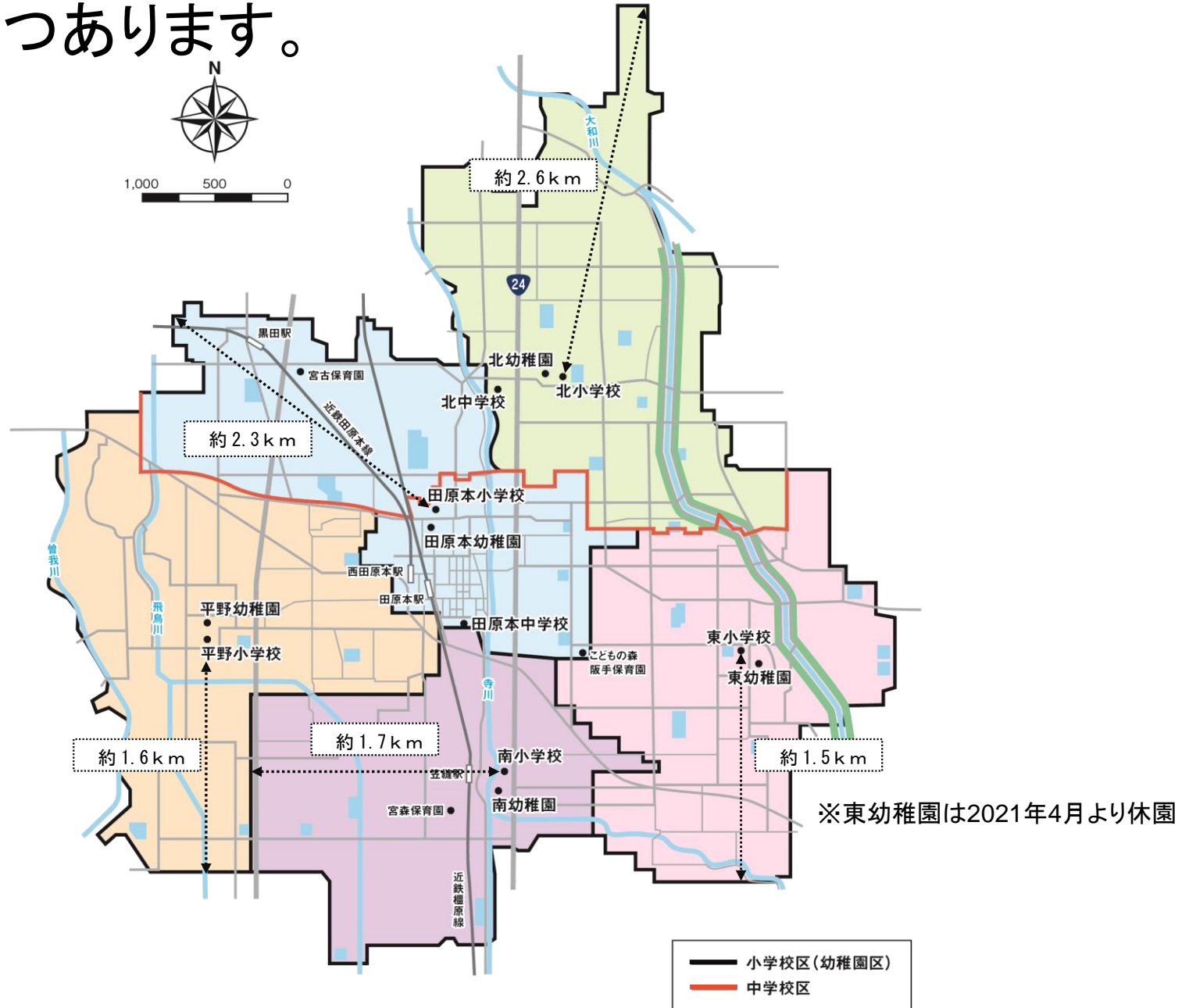
これからの学校教育のあり方に関するアンケート調査につきましては、田原本町学校・幼稚園の規模及び配置の適正化に関する考え方について（答申）（H29.1）を受けて、小・中学校の再配置のあり方について参考とするために行いました。実施内容および調査結果は下記のとおりです。

### 学校教育

- ▶ 就学援助制度(小中学校)
- ▶ 公立幼稚園、公立小中学校二覧
- ▶ 小中学校の転入・転出
- ▶ 就学指定校の変更
- ▶ 幼稚園の入退園、案内など
- ▶ 小中学校への入学
- ▶ 田原本町学校施設長寿命化計画の策定について
- ▶ 大学生ボランティアについて
- ▶ 認定こども園平野幼稚園開園後の様子
- ▶ たわらもと子育て支援事業(教材費等)のご案内
- ▶ 田原本町通学路交通安全プログラムについて
- ▶ 新型コロナウイルス感染症患者の発生に伴う認定こども園平野幼稚園の開園及び特別保育への移行について
- ▶ 町立小・中学校、幼稚園における夏期休業期間の短縮及び2学期の開始について
- ▶ 町立認定こども園田原本幼稚園開園に向けた説明会
- ▶ 学校施設改修等の状況
- ▶ 小・中学校教科用図書採択二覧

## 2. 田原本町の幼稚園・小学校・ 中学校が置かれている状況について

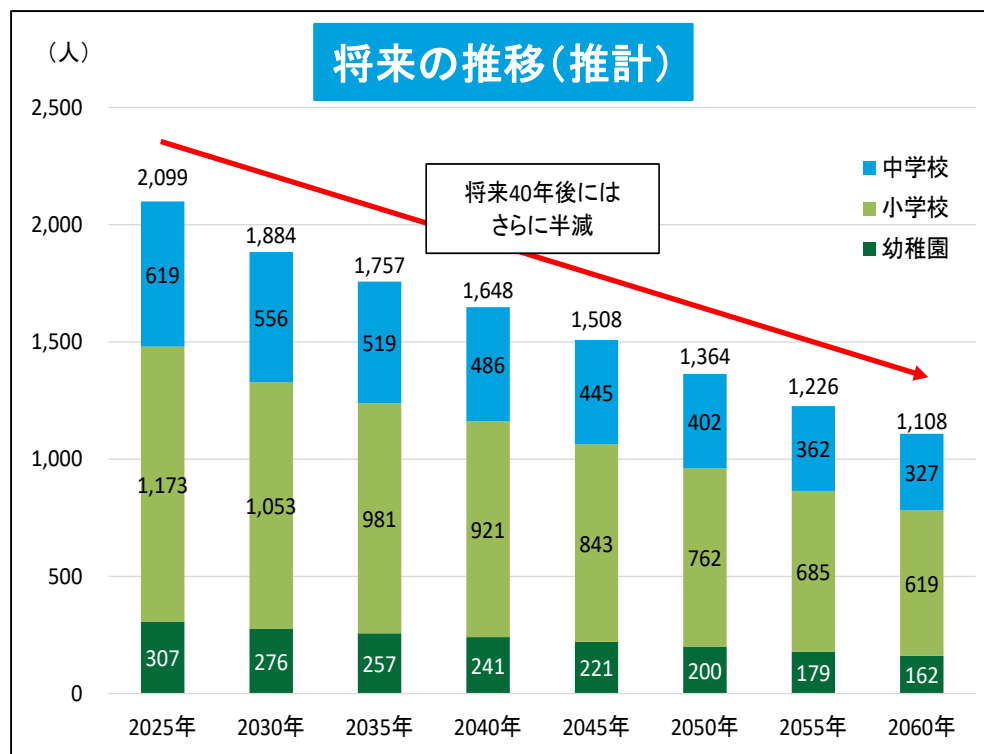
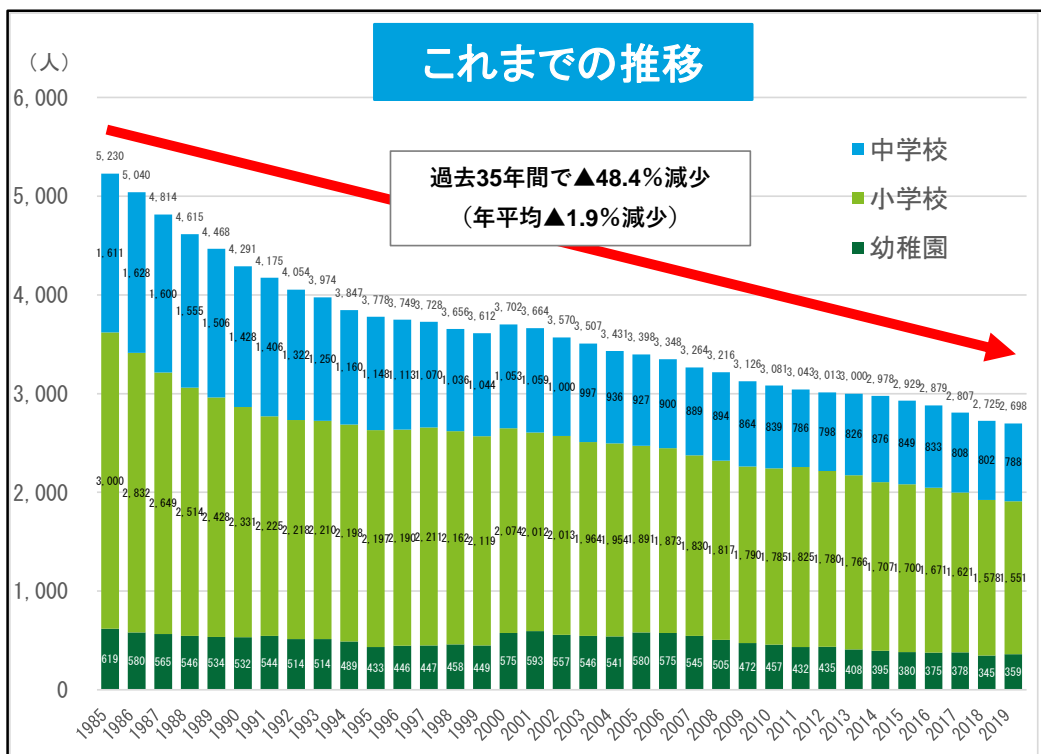
# 田原本町には幼稚園・小学校がそれぞれ5つと 中学校が2つあります。



# 田原本町の園児・児童・生徒数は減少傾向をたどっており、将来40年後にはさらに半減することが予想されます。

## 園児・児童・生徒数の推移

(左が学校基本調査における実数、右が社人研推計に基づく将来の推計値)



幼稚園では東幼・北幼が1学年あたりの平均学級数が2クラス以下で、クラス替えができない環境にあります。

幼稚園園児数の比較（2010年度、2019年度）

施設名	園児数		1学年あたりの平均園児数	
	2010年度	2019年度	2010年度	2019年度
東幼稚園	23	15	8	8
北幼稚園	62	46	21	15
田原本幼稚園	176	136	22	19
南幼稚園	98	72	16	14
平野幼稚園	98	90	20	18
合計	457	359	-	-

幼稚園学級数の比較（2010年度、2019年度）

施設名	学級数		1学年あたりの平均学級数	
	2010年度	2019年度	2010年度	2019年度
東幼稚園	3	2	2	1
北幼稚園	3	3	2	2
田原本幼稚園	8	7	4	4
南幼稚園	6	5	3	3
平野幼稚園	5	5	3	3
合計	25	22	-	-

※東幼稚園は2021年4月より休園

小学校では東小・北小が1学年あたりの平均学級数が2クラス以下で、クラス替えができない環境にあります。

小学校児童数の比較（2010年度、2019年度）

施設名	通常学級児童数 (特別支援学級児童数)		1学級あたりの平均児童数	
	2010年度	2019年度	2010年度	2019年度
東小学校	119(6)	89(3)	14	10
北小学校	229(6)	202(10)	18	18
田原本小学校	734(4)	539(14)	27	24
南小学校	359(11)	364(10)	22	22
平野小学校	344(8)	357(9)	21	26
合計	1785(35)	1551(46)	-	-

小学校学級数の比較（2010年度、2019年度）

施設名	通常学級数 (特別支援学級数)		1学年あたりの平均学級数	
	2010年度	2019年度	2010年度	2019年度
東小学校	9(3)	9(3)	1~2	1~2
北小学校	13(4)	12(3)	2~3	2
田原本小学校	27(2)	23(4)	4~5	3~4
南小学校	17(4)	17(4)	2~3	2~3
平野小学校	17(3)	14(2)	2~3	2~3
合計	83(16)	75(16)	-	-



# 中学校では北中で学級数が減少する傾向がみられます。

中学校生徒数の比較（2010年度、2019年度）

施設名	通常学級生徒数 (特別支援学級生徒数)		1学級あたりの平均生徒数	
	2010年度	2019年度	2010年度	2019年度
田原本中学校	521(10)	565(14)	30	30
北中学校	318(3)	223(3)	32	32
合計	839(13)	788(17)	-	-

中学校学級数の比較（2010年度、2019年度）

施設名	通常学級数 (特別支援学級数)		1学年あたりの平均学級数	
	2010年度	2019年度	2010年度	2019年度
田原本中学校	18(3)	19(4)	6	6~7
北中学校	10(1)	7(1)	3~4	2~3
合計	28(4)	26(5)	-	-

田原本町の学校施設は建物の老朽化が進んでおり、築60年を経過している建物があります。

施設名	築年数 (最も古い棟を掲載、基準年:2021年)
田原本中学校	<u>61年(1号棟)</u>
北中学校	40年(1号棟、2号棟)
東小学校	58年(1号棟、2号棟、3号棟)
北小学校	43年(9号棟、10号棟)
田原本小学校	<u>62年(1号棟、2号棟)</u>
南小学校	<u>60年(1号棟)</u>
平野小学校	55年(1号棟)

※築後60年以上の施設を下線表示しています

# 幼稚園・小学校・中学校の再配置に係る意見を把握するため、昨年6月に中学生、保護者にアンケート調査を実施しました。

<保護者のみなさまへ>

これからの学校教育のあり方に関するアンケート調査  
ご協力をお願い

みなさまには、日ごろから町の教育行政へのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

近年田原本町では、園児・児童・生徒数が減少し続けており、地域差はあるものの各学校・幼稚園では、少しずつ小規模化が進んでいます。現状のまま園児・児童・生徒数の減少による対応を行わないことで、クラス替えができない、運動会などの行事に制約が生じる、PTA活動等の保護者負担が大きくなる等の問題が考えられます。こうした問題は全国でもみられ、平成27年1月には文部科学省から「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が発表されました。

こうした状況を受けて田原本町教育委員会では、将来にわたって子どもたちによりよい教育環境を確保・維持するため、多角的に検討をはじめています。

このアンケート調査は、日頃から教育行政に携わる保護者の皆さまの声をお聞きし、今後の教育環境について考えるための参考資料とさせて頂きたく、回答にご協力くださいますようお願いいたします。

田原本町長 森 章浩

ご記入にあたってのお願い

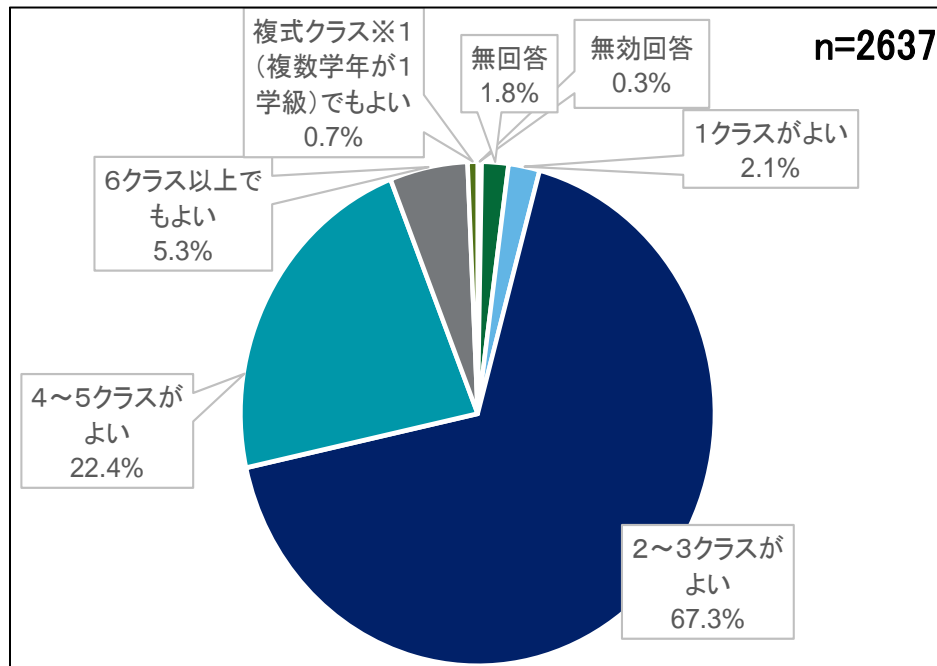
1. 幼稚園及び保育所・小学校・中学校についての質問が含まれています。お手数ですが、現在のお子さまの属性情報や学校に関するお考えやご意見をご記入ください。
2. 当アンケート用紙が配布された学校に関する内容をご回答ください。  
(例：当アンケートが田原本小学校から配布されたものであれば、田原本小学校の事について回答ください)  
(例：ご家庭に2人以上のお子さまがいらっしゃる方（アンケートを2部以上配布）はお手数ですが、お子さまごとにアンケートにご回答ください）
3. 幼稚園・保育所に通われているお子さまの保護者の方は問4以降の質問については小学校に上がった場合を想定してご回答ください。
4. 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なりますので注意書きに従ってください。また「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
5. ご記入いただいた調査票は、**6月22日（月）**までに、お子さまを通じて各学校（園・所）へご提出ください。

(お問い合わせ先)  
田原本町教育委員会事務局 教育総務課  
電話：0744-34-2074  
FAX：0744-32-2977

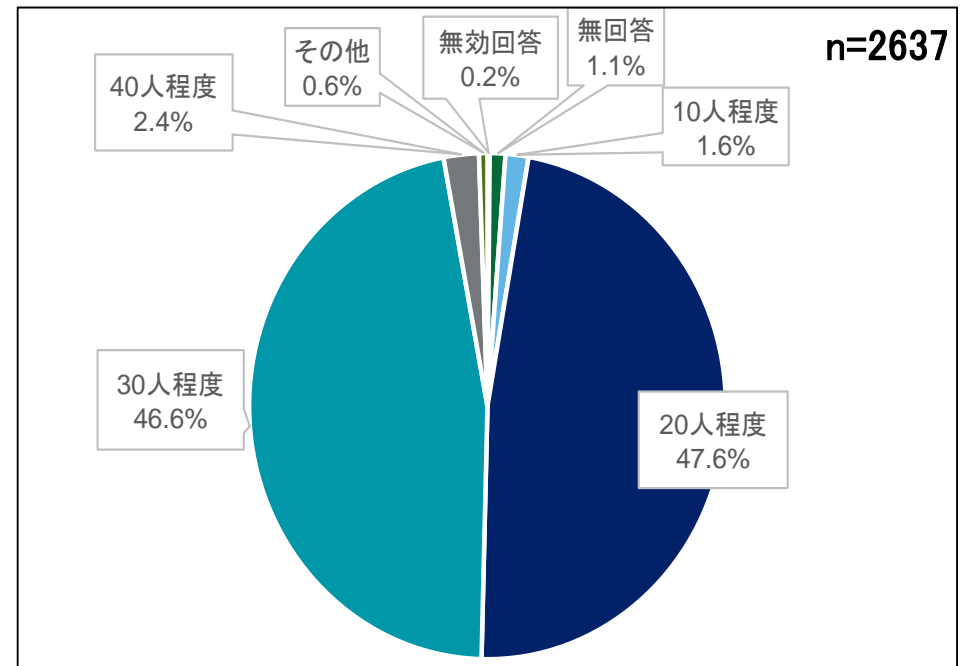
項目	内容
目的	保護者及び中学生の意見を確認することを目的にアンケートを実施
調査対象	田原本町内の小、中学校及び幼稚園、保育園に通う子どもの保護者、田原本町内の中学校に在席している生徒
配布数	3,960件
実施期間	2020年6月10日（水）～6月22日（月）
調査方法	調査票（紙）によるアンケートを実施
回収数	3,398件・回収率85.8% （内訳：保護者用2,637件、生徒用761件）

# 【ご参考】アンケート結果抜粋①

望ましい1学年当りのクラス数は  
「2～3クラス」が最も多い

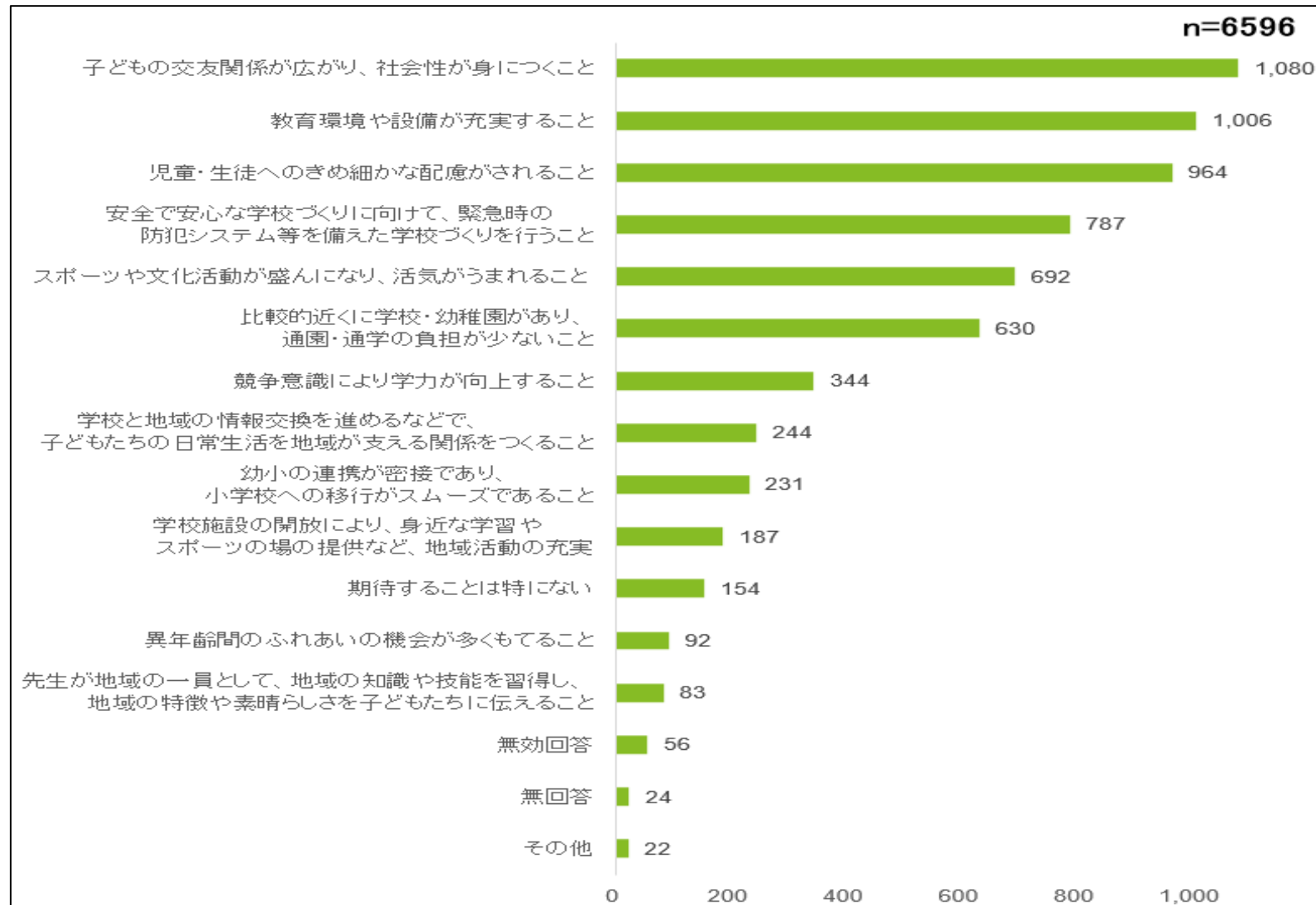


1クラス当りの適切な人数は  
「20人程度」が最も多い






## 【ご参考】アンケート結果抜粋②

小中学校の再配置によって期待することは  
「子どもの交友関係が広がり、社会性が身につくこと」が最も多い



昨年、住民の皆さまから意見をいただくため、ワークショップを開催しました。結果は町HPで公開しています。

回	開催日	開催概要、当日の様子
第1回	2020年 8月29日(土) 9時30分 ～11時30分	<ul style="list-style-type: none"><li>グループに分かれて「子どもが通う学校の良い点／もっと良くなって欲しい点」について意見交換を実施</li></ul> 
第2回	2020年 9月26日(土) 9時30分 ～11時30分	<ul style="list-style-type: none"><li>グループに分かれて「さまざまな立場に立って学校再配置について考える」として意見交換を実施</li></ul> 
第3回	2020年 11月28日(土) 9時30分 ～11時30分	<ul style="list-style-type: none"><li>参加者全員で再配置について不安に思うことと期待することについて意見交換を実施</li></ul> 

ワークショップでは、以下の内容について共通認識として共有しました。

学校の議論のあり方について

- ① 議論は将来に目を向けること
- ② 何事にも適正(子ども、教師にとって)ということが重要である
- ③ 他人事ではなく自分事として“変える”という意識で考える

子どものあり方について

- ① 人数の多・少が子どもの発達においてどちらがメリットが大きいかを考える
- ② 人間的な質を高めるためにいろいろな人と接することができる環境が重要である

# 本町の幼稚園・小学校・中学校の課題として以下の4点が挙げられます。

## 【課題1】 年少人口の減少

- 園児・児童・生徒数は2040年(20年後)には、現在の約70%まで減少\*

## 【課題2】 教育環境から見た 問題の顕在化

- 「東小学校」「北小学校」では小規模校化が進んでいます(クラス替えができない状態)
- 小規模校では保護者(PTA等)への負担が増大しています

## 【課題3】 建物老朽化の対応

- 学校教育系施設の老朽化が著しい状況です

## 【課題4】 小規模園化が 進む幼稚園

- 「東幼稚園」が休園し、「北幼稚園」においても小規模園化が進んでいます

\* 2040年(20年後)には、すべての学校において現在のような学校運営が維持できなくなる(小規模校化、複式学級)ことが懸念されます

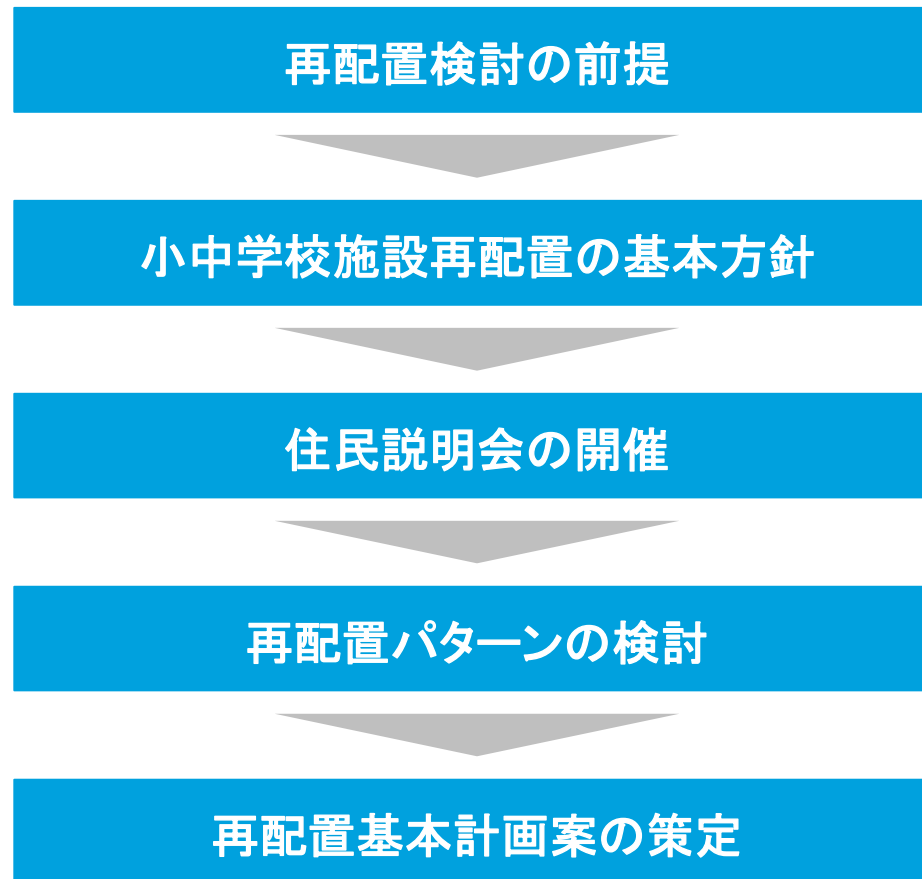


### 3. 小中学校施設再配置基本計画案 の検討について

# 以下のフローに沿って再配置基本計画案を検討しました。

住民アンケート (令和2年6月実施)	【課題の把握】
住民ワークショップ (令和2年8・9・11月実施)	①年少人口の減少      ③建物老朽化の対応 ②教育環境から見た    ④小規模園化が進む幼稚園 問題の顕在化

令和3年度取組



# 「小中学校施設再配置基本方針(案)」は以下の通りです。

項目	内容
①様々な人と接する教育環境	■子どもたちにとって人間的な質を高めるため、様々な人と接することができる教育環境として確保・維持できることを目指します
②小規模校の解消	■適正規模校として子どもたちにとって、教師にとっても必要な学校教育が確保・維持できることを目指します ■このため小規模校を優先して再配置を進めます
③安心な教育環境	■安心して学べるよりよい教育環境を確保・維持できることを目指します
④最適な配置	■施設の老朽化対策や将来のまちづくり等も踏まえて最適な配置を目指します
⑤中長期的目標	■2040年(20年後)の将来に適正規模を維持・確保できていることを目指します
⑥短期目標	■2025年までに再配置の実行に着手することを目指します

「再配置パターンの検討」として、規模適正化の観点から  
小小統合化の組み合わせが望ましいと考えます。



小小統合化  
(小学校の統廃合)



小学校



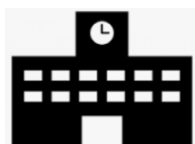
小学校

- 小学校の小規模校化が進行していることから課題の解消につながる
- 特に東小と北小の現状からみれば緊急性・優先性が高い状況

小中複合化  
(小中一貫校化)



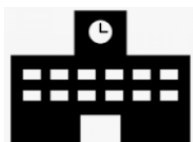
小学校



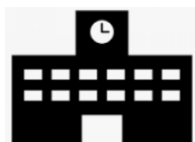
中学校

- 小学校の小規模校化の解消につながらない
- 複合化すれば児童・生徒数が増えることから、2019年に新設したばかりの中学校給食棟を増築する必要がある

中中統合化  
(中学校の統廃合)



中学校



中学校

- 中学校は適正規模からみると当面の期間、教育環境として大きな課題は見受けられない
- 統合化すれば生徒数が増えることから、2019年に新設したばかりの中学校給食棟を増築する必要がある

# 小小統合化の組み合わせは全26パターンありますが一定の適正規模の基準を満たすパターンは11抽出されました。

組み合わせ		再配置パターン	2040年時点における 統合後の推計児童数と学級数*		
5校統合	1パターン	北小+東小+田小+南小+平小	921	31	~ 35
4校統合	5パターン	北小+東小+田小+南小	712	24	~ 27
		北小+東小+田小+平小	694	23	~ 27
		北小+東小+南小+平小	586	20	~ 23
		北小+田小+南小+平小	881	29	~ 34
		東小+田小+南小+平小	810	27	~ 31
3校統合	10パターン	北小+東小+田小	485	16	~ 19
		東小+田小+南小	601	20	~ 23
		田小+南小+平小	770	26	~ 30
		北小+田小+南小	672	22	~ 26
		東小+南小+平小	475	16	~ 18
		北小+田小+平小	655	22	~ 25
		北小+東小+南小	377	13	~ 15
		東小+田小+平小	583	19	~ 22
		北小+南小+平小	547	18	~ 21
		北小+東小+平小	360	12	~ 14
2校統合	10パターン	北小+東小	151	5	~ 6
		北小+田小	446	15	~ 17
		北小+南小	337	11	~ 13
		北小+平小	320	11	~ 12
		東小+田小	374	12	~ 14
		東小+南小	266	9	~ 10
		東小+平小	249	8	~ 10
		田小+南小	561	19	~ 22
		田小+平小	544	18	~ 21
		南小+平小	436	15	~ 17

【一定の適正規模の基準】

■ 2040年(20年後)時点の学級数が適正規模(12学級以上18学級以下)を満たさないものを灰色にて表記

■ 学級数上限・下限の双方を満たさない再配置パターンについて灰色にて表記

\* 社人研推計に基づく減少比率を乗じて推計。学級数は推計児童数に対して26人学級と30人学級の2つを算出し掲載。

前頁の11パターンについて、以下の評価項目に基づき絞込をします。

評価項目案	評価内容
①将来における適正規模の充足状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 将来2040年*時点における学級数が「12学級以上18学級以内」</li> </ul>
②通学距離	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 最大距離が国の標準(4km)を超過しないこと</li> <li>■ 通学路として異なる校区をまたがないこと</li> </ul>
③施設の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 施設の築年数(老朽化)の状況</li> </ul>
④立地	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人口集中地区との近接性</li> </ul>
⑤再配置の効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 施設の整備にあたって投資的な負担が小さく、二重投資にならないこと</li> </ul>

\* 本町の園児・児童・生徒数は2040年には約70%まで減少し、すべての小学校において1学年あたりの平均学級数は1~2学級以下となりクラス替えができない小規模校、複式学級校となり、現在のような学校運営が維持できなくなることが懸念されます。

# 一定の適正規模の基準を満たす11パターンについて評価を行った結果、以下の3パターンが絞り込まれました。

組み合わせ		再配置パターン	①将来における適性規模の充足状況	②通学距離	③施設の状態	④立地	⑤再配置の効率性
3校統合	5パターン	北小+東小+田小	○	○	△	○	○
		東小+南小+平小	○	異なる校区をまたぐ	△	○	△
		北小+東小+南小	○	異なる校区をまたぐ	△	○	○
		北小+南小+平小	○	異なる校区をまたぐ	△	○	△
		北小+東小+平小	○	異なる校区をまたぐ	○	△	○
2校統合	6パターン	北小+田小	○	○	△	○	△
		北小+南小	△	異なる校区をまたぐ	△	○	△
		北小+平小	△	異なる校区をまたぐ	○	△	△
		東小+田小	○	○	△	○	△
		田小+平小	小規模校解消に寄与しない	○	△	○	○
		南小+平小	小規模校解消に寄与しない	○	△	○	○

\*「②通学距離」:異なる校区をまたがるものを灰色表示

\*「⑤再配置の効率性」:東小・北小のいずれの小規模校解消に寄与しないものを灰色表示

以下の3パターンについては、更に外部有識者会議に諮り、最適な再配置パターンを検討します。

再配置パターン	現時点の評価概要	2040年時点における 統合後の推計児童・学級数*
北小+東小+田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 東小、北小の小規模校化の同時解消に適う</li> <li>■ 校区の連続性、近接性の面で有効</li> <li>■ 将来における再配置の効率性の面で有効</li> </ul>	<p style="text-align: center;">485人 (16~19学級)</p>
北小+田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 北小の小規模校化の解消に適う</li> <li>■ 校区の連続性、近接性の面で有効</li> </ul>	<p style="text-align: center;">446人 (15~17学級)</p>
東小+田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 東小の小規模校化の解消に適う</li> <li>■ 校区の連続性、近接性の面で有効</li> </ul>	<p style="text-align: center;">374人 (12~14学級)</p>
<p style="text-align: center;">【補足】 現時点では現状維持 平小+南小</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現時点では適正規模校だが、2040年には小規模校化が予想される</li> </ul>	<p style="text-align: center;">436人 (15~17学級)</p>

\* 社人研推計に基づく減少比率を乗じて推計。学級数は推計児童数に対して26人学級と30人学級の2つを算出し掲載。



今後の検討の流れは、住民説明会、外部有識者会議を経てパブリックコメントを実施する予定です。

